



2014年 環境活動 レポート

Environmental activities report

2014年3月1日～2015年2月28日

株式会社 岩井化成

作成日：2015年5月7日

目次	P 1
環境方針	P 2
会社概要 対象範囲 事業内容	P 3
環境目標	P 4
環境活動計画の内容 ①	P 5
環境活動計画の内容 ②	P 6
環境目標の実績	P 7
環境活動計画の取組結果と評価	P 8
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P 9
代表者による全体の評価と見直し	P 10
産業廃棄物に係る情報の公開①	P 11
産業廃棄物に係る情報の公開②	P 12



1 基本理念

私たち 株式会社岩井化成 は、事業に伴う環境負荷を継続的に低減するとともに、地球環境、地域社会への環境影響に配慮します。

私たち 株式会社岩井化成 は、産業廃棄物処理業として産業廃棄物の適正処理を推進するとともに、求められるリサイクルニーズに対して、リサイクル手法の確立や提案によって産業廃棄物の更なるリサイクル、減容化に努める等、循環型社会の実現に向け全力を尽くします。

2 基本方針

1. 廃棄物収集運搬業、廃棄物処理業などの業務活動に係る環境管理を行うとともに、環境経営システムを構築し、継続的改善によって環境負荷を低減することにより、汚染の予防に積極的に取り組みます。
2. 事業に伴う環境負荷を低減するために、安全で環境に優しい収集運搬と、徹底した分別、適正処理を行い、業務の効率化による省資源、省エネルギーの推進やグリーン購入を環境目標に取り入れ推進し、定期的に見直しを行い、環境経営システムの継続的改善に努めます。
3. 環境関連法令、条例、業界等の指針、自主基準及び地域の要求事項を遵守し、環境汚染予防に努めます。
4. 循環型社会に対応するためのリサイクルシステムを構築、排出事業者・施設見学者への環境教育、環境改善奉仕活動などを実施し、地域社会に貢献します。
5. 環境教育、広報活動などにより、全従業員、関連協力会社に環境方針の周知徹底を図り、環境保全活動に努めます。
6. 事業活動において、化学物質の適正管理に努めます。
7. 環境方針は、一般に公開します。

代表取締役
清水 弘

2012年3月6日

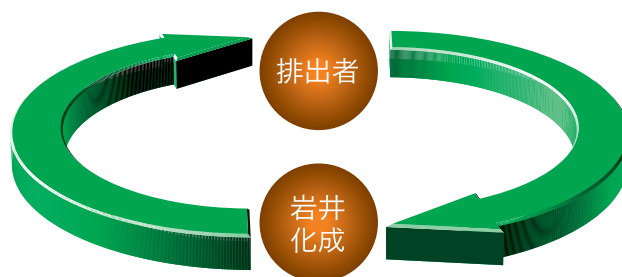
会社概要 対象範囲 環境目標

1 会社概要

- | | |
|---------------------------|--|
| ●会社名……………株式会社岩井化成 | ●資本金……………1,000万円 |
| ●代表者……………清水 弘 | ●事業内容……………合成樹脂再生加工品の製造及び販売
インフレーションフィルムの製造及び販売
廃プラスチック類の中間処分・収集・運搬 |
| ●環境管理責任者……………鈴木 泰代 | |
| ●所在地……………茨城県坂東市馬立南台1263-2 | ●事業所の総床面積……………4972m ² |
| ●電話番号……………0297-35-1879 | ●従業員数……………32人 |
| ●FAX番号……………0297-36-3323 | ●対象事業所……………岩井工場(全組織・全活動) |

2 循環型リサイクルについて

使用済みのポリエチレンも、大切な資源です。岩井化成は、お客様から回収した使用済みポリエチレンを資源として製品化し、再びお客様に使っていただく循環型リサイクルをすすめています。循環型リサイクルは、排出者と回収者、再生者が一体となって取り組む環境活動です。地球環境を守るためにも、私たちが出した排出物は、私たちの国で資源として再利用しましょう。岩井化成は皆さんと一緒に、この活動をすすめていきたいと考えています。

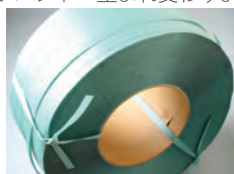


3 リサイクル製品について

PPバンドはもうゴミではありません。新しいバンドへ生まれ変わります。地球環境を考え、新聞梱包材も再利用します。



PPバンド



新聞
包装材



農業用ハウスなど、使用済みの農ポリをリサイクルします。



ビニール
ハウス



レジ袋も大切な資源です！レジ袋が、再生レジ袋に生まれ変わります。



レジ袋



牛乳ビンのふたを捨てないでください。再利用が可能です。



牛乳ビンの
ふた



町から集めたゴミから、ごみ袋ができます。



容器包装



生ビール抽出機とタンクを繋ぐポリエチレンホースを再生品化、梱包袋にして排出者へお返ししています



ビールサーバー
ホース



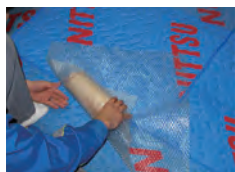
洋菓子などに使用する生クリームの使い終わった容器を再生品化、排出者へお返ししています。



生クリーム袋



引越し配送時に使用する緩衝材を再生品化、排出者へお返ししています。物流環境特別賞受賞。



えこぶち



トナー



環境目標

1 循環型社会構築への貢献

目標項目	2011年度 基準値	単位	2014年度 短期目標	目標値	単位	2016年度 中長期目標	目標値	単位
① ポリエチレン原料再生化量の増加	6,676	t	1%増加	6,742	t	3%増加	6,876	t
② ポリエチレン再生品の企画・商品化	15・22	件	企画化+2件 商品化+3件	17・25	件	企画化+5件 商品化+8件	20・30	件
③ 再生クリアファイルA4	4	件	商品化+1件	5	件	商品化+6件	10	件

2 二酸化炭素排出量の削減

※生産量 t あたりに算出

目標項目	2011年度 基準値	単位	2014年度 短期目標	目標値	単位	2016年度 中長期目標	目標値	単位
① 購入電力の削減※ 1	583	kwh/t	1%削減	577	kwh/t	2%削減	571	kwh/t
② 全工場にオンデマンド監視システムを設置する			デマンド監視システム の設置			デマンド監視システム の設置		
③ 自動車ガソリン使用量の削減	2.77	L/t	1%削減	2.74	L/t	2%削減	2.71	L/t

※1: 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数0.525kg-CO₂/kwhを採用

3 回収量での廃棄物排出量

※回収量 t あたりに算出

目標項目	2011年度 基準値	単位	2014年度 短期目標	目標値	単位	2016年度 中長期目標	目標値	単位
① 一般廃棄物排出量の削減	0.723	kg/t	1%削減	0.716	kg/t	2%削減	0.709	kg/t
② 産業廃棄物排出量の削減	5.026	kg/t	1%削減	4.976	kg/t	2%削減	4.649	kg/t
③ グリーン購入割合の推進	10	%	1%増加	11	%	5%増加	15	%

4 総排水量(水資源投入量)

※生産量 t あたりに算出

目標項目	2011年度 基準値	単位	2014年度 短期目標	目標値	単位	2016年度 中長期目標	目標値	単位
① 上水量の削減	0.537	m ³ /t	基準年度以下	0.537	m ³ /t	基準年度以下	0.537	m ³ /t
② 地下水揚水量の削減	0.017	m ³ /t	基準年度以下	0.017	m ³ /t	基準年度以下	0.017	m ³ /t
③ 地下水揚水量の監視測定			メータの設置			メータの設置		
④ 水質の適正維持			浄化槽法による管理			浄化槽法による管理		

5 化学物質の使用量

目標項目	目 標
化学物質使用量	適正管理

環境活動計画の内容①

1 循環型社会構築への貢献（リサイクル商品の増産）

- ポリエチレン原料の再生化の増加
- 整理整頓による、作業の効率化
- 破損品をなくす
- 整理整頓を目標に掲げ、全従業員が担当をもつ
- リサイクルの伝票導入により、リサイクル資源を管理する
- リサイクル商品の企画、商品化

2 二酸化炭素排出量

- 事務所、工場、倉庫の消耗機器を省エネ機器へ切替る
- 冷暖房機の設定温度を決め、担当者が毎日確認する
- 不使用機器のコンセントを抜く
- フォークリフト不使用時は電源をOFFにする
- 取引先に対して納入車におけるアイドリングストップを推進する
- 社用車の定期整備、アイドリングストップ、経済速度運行、配送ルート最短コースの実行

3 廃棄物排出量

- ごみの分別を徹底する
- 再資源になるように分別し、社内での廃棄物の流れを掲示し、全従業員が分別管理できるよう社員教育をする
- 再利用できない資材の購入を控える

4 水資源投入量

- 再生原料作成時に使用する冷却用の水を循環し再利用
- 節水こまの設置

5 化学物質使用量

- 適正在庫量の把握と管理体制の構築

環境活動計画の内容②

6 その他



クリーン作戦

- 水質の適正維持
- グリーン購入の推進
- 月一度の社内クリーン作戦



レジ袋の回収



清風の森(除草作業)



工場屋根に太陽光発電システムを設置しました。



168枚のパネル設置
容量39.14kw (約40kw)
年間発電量 41,528kwh/年

環境目標の実績

1 循環型社会構築への貢献

目標項目	2011年 基準値	単位	目標	目標値	単位	実 績	2014年 実績値	単位	結果
① ポリエチレン原料再生化量の増加	6,676	t	基準年度比較1%増加	6,742	t	2%増加	6,858	t	達成
② ポリエチレン再生品の企画・商品化	15・22	件	企画2件・商品化3件	17・25	件	企画17件増 商品43件減	企画32 商品65	件	達成
③ 再生クリアファイルA4	4	件	商品化+1件	5	件	3件減少	1	件	未達成

2 二酸化炭素排出量の削減

※生産量tあたりで算出

目標項目	2011年 基準値	単位	目標	目標値	単位	実 績	2014年 実績値	単位	結果
① 購入電力の削減※1	583	kwh/t	基準年度比1%削減	577	kwh/t	2%削減	574	kwh/ t	達成
② 購入電力の監視測定			各施設毎メータ設置			設置完了			達成
③ 自動車ガソリン使用量の削減	2.77	L/t	基準年度比1%削減	2.74	L/t	3%削減	2.69	L/ t	達成

※1: 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数0.525kg-CO₂/kwhを採用

3 回収量での廃棄物排出量

※回収量 t あたりで算出

目標項目	2011年 基準値	単位	目標	目標値	単位	実 績	2014年 実績値	単位	結果
① 一般廃棄物排出量の削減	0.723	kg/t	基準年度比1%削減	0.716	kg/t	4%削減	0.695	kg/t	達成
② 産業廃棄物排出量の削減	5.026	kg/t	基準年度比1%削減	4.976	kg/t	67%増加	7.964	kg/t	未達成
③ グリーン購入割合の推進	10	%	基準年度比1%増加	11	%	230%増加	23	%	達成

4 総排水量(水資源投入量)

※生産量 t あたりで算出

目標項目	2011年 基準値	単位	目標	目標値	単位	実 績	2014年 実績値	単位	結果
① 上水量の削減	0.537	m ³ /t	基準年度以下	0.537	m ³ /t	29%増加	0.693	m ³ /t	未達成
② 地下水揚水量の削減	0.017	m ³ /t	基準年度以下	0.017	m ³ /t	6%削減	0.016	m ³ /t	達成
③ 地下水揚水量の監視測定			メータの設置			設置完了			達成
④ 水質の適正維持			浄化槽法による管理			浄化槽法による管理			達成

5 化学物質使用量

目標項目	目 標	実 績	結果
① 化学物質使用量	適正管理	-	-

環境活動の取組結果と評価

1 循環型社会構築への貢献(リサイクル商品の増産) 取組結果と評価

達成

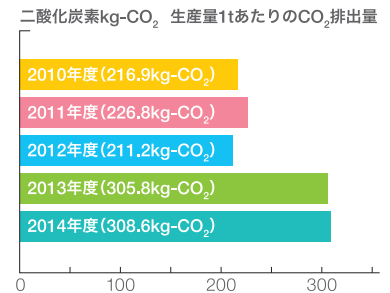
- 当社独自の社内用リサイクル伝票を作成し、入荷した廃棄物を記録し、管理するすべての部署に廻るようにした。
- リサイクル商品の企画、商品化については、今までの技術や仕組みを形にし、付加価値を見出すために商品化を率先して進めた結果、排出先で出た廃棄物を再利用できる、循環型商品を作成することができ、ポリエチレン再生品の商品化が、大幅に増加した。
- リサイクル認定製品として地元である茨城県の他に、エコマークの認定なども複数取得。
- ポリエチレン製の再生A4クリアファイル(Re ♻️ ファイル リーフファイル)の商品化。

2 二酸化炭素排出量 取組結果と評価

達成

- 生産量が増加したことに伴い、CO₂排出量は増加したが、1kgあたりのCO₂が増加した理由には、購入電力の排出係数を 0.375kgから0.525kg-CO₂/kwhを採用した為である。
- 社用車の経済速度運行の実行やアイドリングストップなどが習慣になった。
- 購入電力の排出係数は0.525kg-CO₂/kwhを採用した。

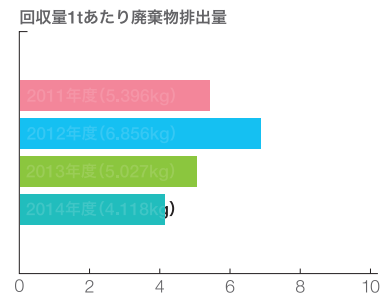
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
総生産量(t)	6,040	6,676	6,751	7,016	6,858
二酸化炭素(kg-CO ₂)	1,310,241	1,513,819	1,426,098	2,145,322	2,116,087
生産量 1t あたりの kg-CO ₂ 排出量	216.9	226.8	211.2	305.8	308.6



3 廃棄物排出量 取組結果と評価

未達成

- 回収素材の増加に伴い、その梱包材や異物混入が廃棄物として排出されてしまう為、全体の排出量が増えている。



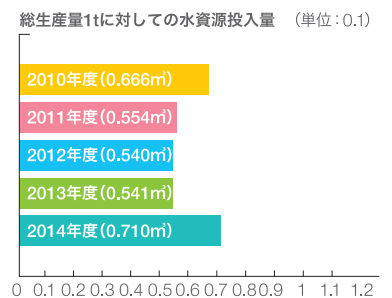
4 水資源投入量 取組結果と評価

達成

- 再生ペレットを製造する段階で、冷却用の水を再利用し、効率よく循環できた。

上下水と地下水合計

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
水資源投入量(m ³)	4,023	3,700	3,648	3,797	4,872
生産量 1t あたりの水資源投入量(m ³)	0.666	0.554	0.540	0.541	0.710



5 化学物質使用量

- 第1種指定化学物質(トルエン)の代替物質の検討、水溶性インクへの移行

総合
判断

廃棄プラスチックのリサイクル事業を拡大することが、循環型社会の構築につながるため、今後も積極的に広めていく。また、廃棄物排出量が減少しない理由についても、工場でのリサイクル工程による廃棄物発生は少ないが、材料の回収品に異物が混入していることが多いため、回収先へ分別協力を要請する。

次年度の取組内容

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関わる主な関連法規は以下の通りです。

廃棄物処理法

道路運送車両法

消防法

浄化槽法



環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

また、訴訟も過去3年間ありません。

2014 NEW 環境展 地球温暖化防止展 出展いたしました。

2014年5月27日～30日



代表者による全体の評価と見直し

1 エコアクション21全体の取組状況の評価

取組			評価	評価内容
環境経営システムが有効に機能しているか/したか	PDCAサイクル	A→P 代表者による全体の評価と見直しは計画に反映しているかなど	4	各部門がそれぞれ取り組んでいる。
		P→D 計画は効果的に実施されたかなど	4	環境意識を持って実施されている。
		D→C 実施状況、結果は適切に確認・評価されたかなど	4	今後の取り組みを見守りたい。
		C→A 確認・評価された情報は、代表者による全体の評価と見直しに反映されているかなど	4	長期的な課題が今後の検討対象となると考えられる。
	継続的改善 (上記の総評)		4	概ね評価できる。
環境への取組は適切に実施されているか/されたか	環境方針		5	環境意識を持って各社員が環境方針に取り組んでいる。
	環境目標	短年度	4	新たな目標を設定する。
		中長期	4	特に変更の必要はない。
	環境活動計画		4	特に変更の必要はない。
	是正処置の実施		3	結果の評価値の見直し。
	予防処置の実施		3	特に問題点はないと思われる。
	環境関連法規等の遵守		4	関連法規の違反や関係当局からの違反の指摘は見当たらない。

5 大変よく実施されている 4 (3と5の中間) 3 特に問題はない 2 (1と3の中間) 1 問題あり。是正処置必要

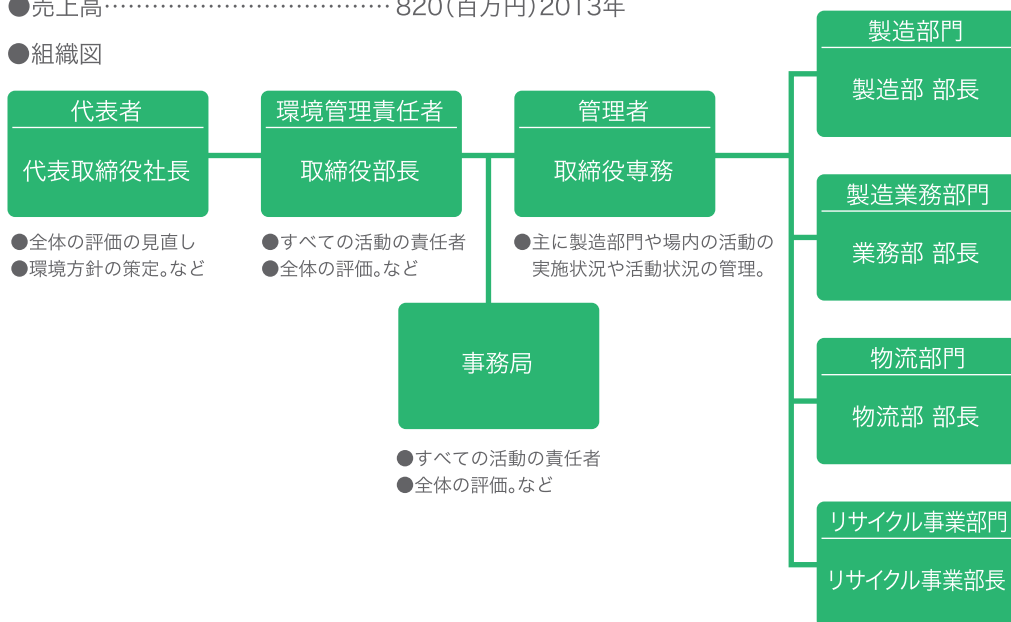
2 全般的な見直しと必要な指示

見直し項目			変更の必要性	環境管理責任者への指示事項
環境経営システム	PDCAサイクル	A→P 代表者による全体の評価と見直しの計画への反映など	不要	現状にて継続する。
		P→D 計画の効果的な実施など	不要	現状にて継続する。
		D→C 実施状況、結果の適切な確認・評価など	不要	現状にて継続する。
		C→A 確認・評価された情報の、代表者による全体の評価と見直しへの反映など	不要	現状にて継続する。
	継続的改善		不要	現状にて継続する。
環境への取組	環境方針		不要	特に変更の必要はない。
	環境目標	短年度	必要	デマンド監視システムを設置したので、環境目標を継続運用に変更する。また、目標項目の(1)の③を、内容が同じため②に含める。
		中長期	不要	特に変更の必要はない。
	環境活動計画		不要	特に変更の必要はない。
	是正処置の実施		必要	是正内容を確認し、実施する。
	予防処置の実施		不要	今後の結果を見て検討する。
	環境関連法規等の遵守		不要	関連法規違反はないので、変更の必要はない。

産業廃棄物に係る情報公開①

1 組織概要

- 会社設立……………昭和62年4月
- 資本金……………1000(万円)
- 売上高……………820(百万円)2013年
- 組織図



2 産業廃棄物中間処理業

- 事業範囲……………事業区分(中間処理(破碎))
産業廃棄物の種類
(中間処理(破碎)に係るもの、廃プラスチック類)
- 許可場所……………茨城県
- 許可番号……………821119962
- 許可日及び期限……………許可日(2005.8.25)
有効期限(2015.8.24)

3 産業廃棄物収集運搬業

- 事業範囲……………廃プラスチック類
- 許可場所……………茨城県・埼玉県
- 許可番号……………801119962(茨城県)・117119962(埼玉県)
- 許可日……………2006.2.3(茨城県)・2006.1.25(埼玉県)
- 有効期限……………2016.2.2(茨城県)・2016.1.24(埼玉県)
- 運搬車両の種類と台数……………4トントラック(1台)
2トントラック(1台)
パッカー車(1台)

産業廃棄物に係る情報公開②

4 受託した産業廃棄物の処理実績（2014.3～2015.2）

● 収集運搬業……収集運搬業の業としての実績はありません。

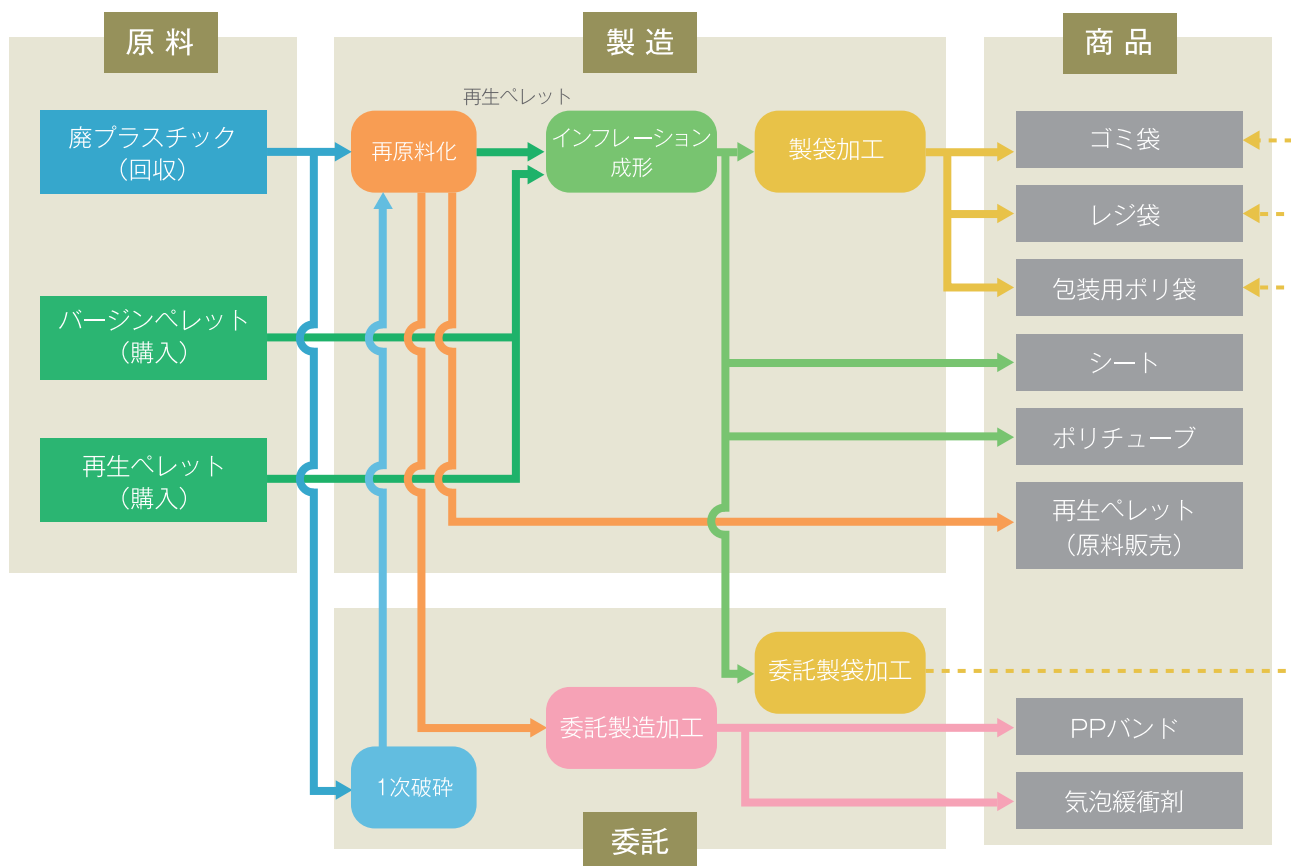
● 中間処理業……中間処理業の業としての実績はありません。

※回収したプラスチックは、すべて有価としてリサイクルしています。

5 中間処理に係る情報

処理施設の種類	破砕施設
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック（ポリエチレン）
処理能力	2.39t/ 日（8 時間）
処理方法	（横型）一軸式

6 フロー図（処理工程図）





- 所在地：茨城県坂東市馬立南台1263-2
- 電話：0297-35-1879
- F A X：0297-36-3323
- 事業案内：●合成樹脂再生加工品の製造及び販売
●インフレーションフィルムの製造及び販売
●廃ポリエチレンの中間処理業
●廃ポリエチレンの収集運搬
- U R L：www.iwaikasei.co.jp
- E - M a i l：info@iwaikasei.co.jp

